

Title	日本のファンシーをめぐる1970年代の女性文化再編の研究：サンリオ出版を中心に
Sub Title	Research on the reorganization of women's culture in the 1970s regarding Japanese "fancy" : focusing on publications by Sanrio Co., Ltd.
Author	小平, 麻衣子(Odaira, Maiko) 尾崎, 名津子(Ozaki, Natsuko) 吉田, 司雄(Yoshida, Morio) 小泉 (徳永), 夏子(Koizumi, Natsuko) 井原, あや(Ihara, Aya)
Publisher	
Publication year	2024
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2023.)
JaLC DOI	
Abstract	やなせたかしの編集による『詩とメルヘン』について、詩の投稿雑誌としての意義を考察した。読者たちが、編集側の企画やイラストに対し、どのように共鳴し、どのように齟齬を感じるのか、また同誌における〈メルヘン〉の定義についても分析した。 さらに、創業者の辻信太郎が執筆した複数の物語や、サンリオが拡大した事業についても分析した。例えば漫画誌『リリカ』におけるリリズムや、映画製作の意義と変遷、さらに、サンリオSF文庫を主導した山野浩一のSF観や、SF文庫と少女漫画家とフェミニズムとの関係などを分析した。それらを通して、1970年代の文学と文化の変容を明らかにした。 We considered the significance of ``Shi To Meruhen" edited by Takashi Yanase as a magazine for submitting poetry. We analyzed how readers resonated with and felt conflicted with the editor's plans and illustrations, and also analyzed the magazine's definition of ``fairy tale." We also analyzed several stories written by company founder Shintaro Tsuji and the businesses that the Sanrio company expanded into. For example, we analyzed the lyricism in the manga magazine ``Ririka", the significance and changes in film production, the SF views of Koichi Yamano, who led Sanrio SF Bunko, and the relationship between SF Bunko, girls' manga artists, and feminism. Through these works, he revealed the transformation of literature and culture in the 1970s.
Notes	研究種目：基盤研究 (C) (一般) 研究期間：2020～2023 課題番号：20K00293 研究分野：近代日本文学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_20K00293seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

令和 6 年 5 月 14 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00293

研究課題名 (和文) 日本のファンシーをめぐる1970年代の女性文化再編の研究ーサンリオ出版を中心に

研究課題名 (英文) Research on the reorganization of women's culture in the 1970s regarding Japanese "fancy" - Focusing on publications by Sanrio Co., Ltd.

研究代表者

小平 麻衣子 (Odaira, Maiko)

慶應義塾大学・文学部 (三田) ・教授

研究者番号：40292635

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 3,400,000 円

研究成果の概要 (和文) : やなせたかしの編集による『詩とメルヘン』について、詩の投稿雑誌としての意義を考察した。読者たちが、編集側の企画やイラストに対し、どのように共鳴し、どのように齟齬を感じるのか、また同誌における〈メルヘン〉の定義についても分析した。さらに、創業者の辻信太郎が執筆した複数の物語や、サンリオが拡大した事業についても分析した。例えば漫画誌『リリカ』におけるリリズムや、映画製作の意義と変遷、さらに、サンリオSF文庫を主導した山野浩一のSF観や、SF文庫と少女漫画家とフェミニズムとの関係などを分析した。それらを通して、1970年代の文学と文化の変容を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1970年代は、政治の季節とされる1960年代、大量消費時代とされる1980年代の間に挟まれ、過渡期として積極的な位置づけがなされずにきたが、これについて複数の文化を横断して分析した。サンリオ創業者の辻信太郎や『詩とメルヘン』を編集したやなせたかしなどは、教養への親炙を戦争によって中断されたが、それらが戦後の事業としてどのように展開されたのか、それをきっかけに文学がサブカルチャーの発現にどのように関わったのか、などを通して、文学から社会を分析する視座を提示した。

研究成果の概要 (英文) : We considered the significance of "Shi To Meruhen" edited by Takashi Yanase as a magazine for submitting poetry. We analyzed how readers resonated with and felt conflicted with the editor's plans and illustrations, and also analyzed the magazine's definition of "fairy tale."

We also analyzed several stories written by company founder Shintaro Tsuji and the businesses that the Sanrio company expanded into. For example, we analyzed the lyricism in the manga magazine "Ririka", the significance and changes in film production, the SF views of Koichi Yamano, who led Sanrio SF Bunko, and the relationship between SF Bunko, girls' manga artists, and feminism. Through these works, he revealed the transformation of literature and culture in the 1970s.

研究分野：近代日本文学

キーワード：文芸投稿誌 詩 メルヘン 映画 SF 少女マンガ

1. 研究開始当初の背景

日本近代文学研究において韻文研究は多いわけではなく、詩の実作者によって担われていることも多い。女性の詩については、〈女性詩〉がタームとして詩雑誌をにぎわせる 1980 年代以降を対象としたものが多い。また、詩壇の詩人ではなく、一般享受者を対象とした研究も殆どなかった。

一方、1970 年代という時代は、文化研究や社会学においても、政治の季節とされる 1960 年代、大量消費時代とされる 1980 年代の間に挟まれ、音楽やテレビ、雑誌など特徴的なメディアが語られながらも、過渡期として積極的な位置づけがなされずにきた。そこで、これらを視野に入れて研究できる対象として、サンリオ株式会社が出版した書籍に着目した。

サンリオ株式会社は、現在はキャラクター商品で有名であり、キャラクターに代表される日本的〈かわいい〉の定義や現象についての研究は蓄積もある。だが、サンリオ創業時から、詩、メルヘン関連の書籍や雑誌、SF 文庫や、海外の翻訳を扱うサンリオ文庫、またアニメーションやドキュメンタリー映画の制作など、幅広い文化的事業を行っていたことには注目がされていなかった。一企業を視座に、日本的〈かわいい〉現象にこだわらずに、上記の課題に取り組もうとした。

2. 研究の目的

①一般享受者を対象とした詩研究の方法論確立、②1970 年代の女性をめぐる文化的構図の把握、の 2 点を主な目的とした。

それにより、文化と事業、ハイカルチャーとサブカルチャーといった対立概念に回収されない、多様な文化の構成と流動を把握することを目指した。

その際、サンリオのキャラクター開発のきっかけとなった「ギフト」という考え方が、出版においてもギフトブックの制作として表れ、作品内容における〈愛〉や人間関係の捉え方と連動していることに着目した。また、それらがジェンダー概念といかにつながっているかにも注意を払った。

3. 研究の方法

研究代表者である小平麻衣子が、投稿雑誌における文学的教養の普及と書き手の育成についての研究を担当した。研究分担者では、尾崎名津子が日本的〈ファンシー〉に関わる概念整理を担当、吉田司雄が、創元 SF 文庫やハヤカワ文庫と差異化されたサンリオ SF 文庫の特色や映画事業の意義づけについてを分担、徳永夏子は 1970～1980 年代の女性文学をめぐる政治性と消費の関係についての研究、井原あやは 1970～1980 年代の女性雑誌と文学の関係についての研究を担当とし、各自の研究と、複数回にわたる研究会でのゲストのコーディネートをを行った。

主な対象を、雑誌『詩とメルヘン』、創業者・辻信太郎の著作、『いちご新聞』、マンガ詩『リリカ』、SF 文庫と定め、各自の文学研究の方法論と知見をふまえて読解を進め、研究発表と議論を繰り返した。映画事業については、映画研究の専門家を招いて交流を試み、実作者やイラストレーターへのインタビューも行い、複数の視座を確保できるように努めた。

4. 研究成果

複数の研究会において発表・議論を行った主要な研究成果は、『サンリオ出版大全一教養・メルヘン・SF 文庫』（慶應義塾大学出版会、2024 年）として刊行したため、以下にその要約を記述する。

本書は四部からなり、第一部「雑誌共同体と外部」は、代表的刊行物である雑誌『詩とメルヘン』について、そこでの「詩」と「メルヘン」がどのような内実を持つのか、雑誌の内部のみならず、外部との対比も視野に入れて概観した。第二部「女性詩のバリエーション」では、『詩とメルヘン』の女性詩の動向をより詳細なレベルで分析した。語の選択、テーマ、イラストとの関係など、複数の視座からアプローチした。第三部「教養ある商品」では、サンリオの多角的な事業展開とは一見異質にもみえる教育・教養的な理念について複数のメディアを横断して分析した。第四部「産業と科学とフェミニズム」では、エンターテインメントとして視覚的、映像的な要素と結ぶジャンルにおける展開について、文化産業の主要な構造への同調と、独自路線の追求という両面から分析を行った。

第一部では、小平麻衣子「『〈だったら〉の詩情——『詩とメルヘン』とジェンダー』が、出版部創成期のバラエティある刊行物、現代女性詩人叢書という前史、同時期の女性雑誌との関係などから『詩とメルヘン』を概観した。創刊時から 1980 年代にかけて、比喩の使い方や女性のセクシュアリティの浮上などの変化を跡付けた。大島丈志「詩はだれのものか？——『詩とメルヘン』におけるやなせたかしの抒情と編集方針」は、素人性を重視するゆえに詩論を排したやなせたかしの編集方針、詩作の特徴と矛盾を、「本来性志向」をキーワードに複数のテキストから

抽出した。

吉田恵理『『詩とメルヘン』のマザーグースとアリス—ポスト戦後詩のノンセンスの視座から』は、1960年代後半から70年代に起こった「詩のブーム」をきっかけに、現代詩が商品化や大衆化に対峙するなかで生じた問題意識として〈ノンセンス〉を論じ、『詩とメルヘン』との接点を探った。尾崎名津子「感傷の在り処——『詩とメルヘン』と安房直子」は、『詩とメルヘン』における「メルヘン」とはいかなるものかを、安房直子のテキストから探った。花など植物を多くモチーフとし、何かを獲得すると同時に喪失するという〈感傷〉の形式を見出した。

第二部では、米山大樹「きのゆりと『詩とメルヘン』——詩の計量的分析から」は、『詩とメルヘン』の投稿者・きのゆりを対象に、テキストマイニングの手法を用いて分析した。〈少女〉概念や詩集ごとの「わたし」と他者との関係性などを明らかにした。井原あや「〈少女〉から〈兄貴〉へ——『詩とメルヘン』をめぐる言説と誌面の変化」は、1970年代後半から80年代初めの『詩とメルヘン』を、周辺の雑誌メディアの中に位置づけ、その上で、具体的な女性投稿詩を取り上げ、母娘関係、結婚、恋愛関係に対する繊細なまなざしのみならず、社会への反抗など、〈少女〉という先入観には収まらない表現があることを明らかにした。

徳永夏子「言葉を送ること、受け取ること——『詩とメルヘン』における共鳴の方法」は、1980年代『詩とメルヘン』のイラスト重視、特に美少女画に注目し、そこに描き手と少女の不均衡な関係が含意されていたことを、詩の投稿者の一人である内城文恵（まっしろ）のテキストを例に読み解いた。

第三部では、河田綾「ひたすら信じつづけること——辻信太郎におけるメルヘン」は、辻信太郎が語った「やさしさと思いやりの輪」の機構を、彼自身が執筆した文学的テキストを通じて分析した。帆苅基生『『いちご新聞』の中の〈文学〉——ファンシーな教養主義』は、『いちご新聞』におけるいちごの王様のメッセージに、人間形成のために本を読むことを勧める教養主義的な主張があることを指摘し、具体的に言及された文学作品の傾向を確認した。村松まりあ「マンガ雑誌『リリカ』の挑戦」は、1970年代に刊行されたマンガ誌『リリカ』が、オールカラーの斬新な誌面であったにもかかわらず短命に終わるまでの経緯を跡付け、サンリオ的「リリシズム」のマンガにおける表れを分析した。

第四部では、木村智哉「サンリオの映画事業とその時代」が、映画事業を制作と配給の面から概観し、映画業界以外が参入するという1970年代における日本映画産業の構造的な転換の中に位置づけた。加藤優「サンリオSF文庫の小説世界——山野浩一のSF評論とその実践」は、1980年代を中心に刊行されたSF文庫を、同時代のSFブームと照らし合わせ、山野浩一のSF観が、科学やテクノロジーではなく、日本の主体性のある論理を求めるものであったことを具体的に提示した。吉田司雄「サンリオSF文庫とフェミニズムSFの地平」は、サンリオSF文庫が、女性作家をいち早く紹介した経緯を辿り、日米の事情を背景に、竹宮恵子や、萩尾望都などの少女マンガを介在させながら、フェミニズムとしての展開の有無や違いを検討する。

さらに、サンリオ出版に関わった創作者、イラストレーター、会社関係者に講演またはインタビューを行い、収録した。

以上によって、辻信太郎とやなせたかしに見られるような、戦前の教養にも連なる出版事業から、大量消費時代のサブカルチャーの新興に至る具体相を把握し、併せて女性の書き手の文学への参加のしかたを明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 辻 朋邦, 小平 麻衣子	4. 巻 1278
2. 論文標題 元祖"カワイイ"文化の継承者として 株式会社サンリオ 代表取締役社長 辻朋邦さん	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 三田評論	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 井原あや	4. 巻 109
2. 論文標題 鈴木貴宇著『〈サラリーマン〉の文化史—あるいは「家族」と「安定」の近現代史—』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本近代文学	6. 最初と最後の頁 188-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 井原あや	4. 巻 88
2. 論文標題 瀬戸内寂聴（晴美）文学の可能性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 229-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 小平麻衣子	4. 巻 -
2. 論文標題 「女の一生」の分かれ道：森本薫作・久保田万太郎演出の〈戦後〉	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 藝文研究	6. 最初と最後の頁 79-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 井原あや	4. 巻 -
2. 論文標題 「〈林美美子〉を語る――一九六〇」年代、田中澄江『うず潮』とメディアのなかの〈林美美子〉」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大妻女子大学紀要一文系一	6. 最初と最後の頁 107-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 小平麻衣子	4. 巻 -
2. 論文標題 獅子文六『やっさもっさ』原稿にみる「混血児」・売春婦・女のビジネス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本近代文学館年誌	6. 最初と最後の頁 69-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 小平麻衣子	4. 巻 54
2. 論文標題 同人誌時代の瀬戸内晴美―『文学者』『Z』と小田仁二郎―	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 206-213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 尾崎名津子	4. 巻 -
2. 論文標題 織田作之助とJ・M・シンガー戯曲から小説への転換―	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 2-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 尾崎名津子	4. 巻 -
2. 論文標題 「何も考えちゃいないさ。みてただけさ。」—鈴木清順監督作品『弘高青春物語』の表現—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域未来創生センタージャーナル	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 尾崎名津子	4. 巻 27
2. 論文標題 The Politicality of Modern Japan: Korea Editions' Use of Korean Literature	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Korean History	6. 最初と最後の頁 45-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.22372/ijkh.2022.27.1.45	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 井原あや	4. 巻 -
2. 論文標題 『詩とメルヘン』の基礎的研究——一九七〇年代後半から一九八〇年代初頭の詩の傾向—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大妻国文	6. 最初と最後の頁 223-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 井原あや	4. 巻 54
2. 論文標題 消費されることと捉え返すこと—瀬戸内晴美はどう語られてきたか—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 214-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 井原あや	4. 巻 -
2. 論文標題 「復讐と快楽——田村俊子「妬情」小論」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『大妻国文』	6. 最初と最後の頁 167-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 3件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 井原あや
2. 発表標題 〈メルヘン〉を語ること—雑誌『詩とメルヘン』—
3. 学会等名 大妻女子大学国文学会 第103回国文学会例会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田司雄
2. 発表標題 日本探偵小説と東南アジア
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語フォーラム第9回オンライン大会2021（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田司雄
2. 発表標題 東アジア探偵小説史構築のために—江戸川乱歩と金来成
3. 学会等名 昭和文学会春季大会国際シンポジウム（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 尾崎名津子
2. 発表標題 まぼろしとまやかしー津島佑子「半減期を祝って」と岡田利規「地面と床」が描く〈疎開〉ー
3. 学会等名 日本近代文学会東北支部2020年度冬季大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 小平麻衣子,井原あや,尾崎名津子,徳永夏子,大島丈志,吉田恵理,米山大樹,河田綾,帆苺基生,村松まりあ,木村智哉,加藤優,吉田司雄,小手鞠るい,小池昌代,永田萌,高桑秀樹	4. 発行年 2024年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 400
3. 書名 サンリオ出版大全ー教養・メルヘン・SF文庫	

1. 著者名 飯田祐子,泉谷瞬,井原あや,大串尚代,小平麻衣子,康潤伊,木村朗子,久米依子,倉田容子,黒岩裕市,笹尾佳代,篠崎美生子,武内佳代,竹田志保,徳永夏子,内藤千珠子,中谷いずみ,堀ひかり,光石亜由美,村上陽子,米村みゆき	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 258
3. 書名 ジェンダー×小説 ガイドブック	

1. 著者名 小平麻衣子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 296
3. 書名 なぞること、切り裂くことー虚構のジェンダー	

1. 著者名 井原あや	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 228
3. 書名 フォビアがいっぱいー多文化共生社会を生きるために	

1. 著者名 押野 武志、吉田 司雄、陳 國偉、ト・メイコウ、張文菁、趙陽、リーミンツォン、林穎孟、横路啓子、楊乃女、今井秀和、陳國偉、金儒農、瀟湘神	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 交差する日台戦後サブカルチャー史	

1. 著者名 紅野謙介、内藤千珠子、成田龍一、小平麻衣子、井原あや、吉田司雄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 469
3. 書名 〈戦後文学〉の現在形	

1. 著者名 小倉孝誠、宇沢美子、小平麻衣子、川島健太郎、坂田幸子、申明直、関根謙、巽孝之、原田範行、松下優一、松本健二	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 328
3. 書名 世界文学へのいざない	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	尾崎 名津子 (Ozaki Natsuko) (10770125)	立教大学・文学部・准教授 (32686)	
研究 分担者	吉田 司雄 (Yoshida Morio) (50296779)	工学院大学・教育推進機構（公私立大学の部局等）・教授 (32613)	
研究 分担者	小泉 夏子（徳永夏子） (Koizumi Natsuko) (00579112)	日本大学・スポーツ科学部・講師 (32665)	
研究 分担者	井原 あや (Ihara Aya) (30882302)	大妻女子大学・文学部・講師 (32604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------